

J.LEAGUE™ NEWS



新年のごあいさつ

新しい年が明け、サッカーとスポーツを愛する皆さまに、ごあいさつを申し上げます。そして、東日本大震災におきまして、被災された皆さま、ご家族の皆さまには、あらためてお見舞い申し上げます。

Jリーグはことし、新たにFC町田ゼルビアと松本山雅FCの2クラブを迎え、J1とJ2を合わせて40クラブ体制という、現行の2部制としては完成形のクラブ数となってシーズンをスタートします。1993年に10クラブでスタートしたJリーグは、今や29都道府県にJクラブが存在するまでに発展しました。現在も数多くのクラブ、地域がJリーグを目指しており、今後は既存のJクラブとの入れ替えも行われます。リーグの発展のため、そしてクラブのさらなる成長のため、今までの「共生」の精神から一段階上の「競争」の精神へ、われわれは足を止めることなくステップアップしていきます。

昨年は日本サッカー界にとっては大きく成長する1年となりました。1月のSAMURAI BLUE(日本代表)のAFCアジアカップ カタール 2011 制覇をはじめ、3月の「東北地方太平洋沖地震復興支援チャリティーマッチ がんばろうニッポン!」の成功、そして国民的関心事となった、なでしこジャパン(日本女子代表)のFIFA女子ワールドカップドイツ2011の優勝など、日本のサッカー界がこれほどまでに注目された1年はありませんでした。

ことしも、皆さまの注目を集める存在として、そして日本サッカーを引っ張る存在としてのJリーグを確立させる1年にしたい。そのためにも、国内での成長のみならず、広くアジアに目を向けた活動に着手していきます。当然のことながら、AFCチャンピオンズリーグに参加する4クラブには、是非とも久しく遠ざかっているタイトルを奪還していただき、世界への挑戦権を獲得してほしいと思います。

Jリーグはことし、リーグ戦とヤマザキナビスコカップにおいて記念すべき20回目の大会を迎えます。

この20回目の大会と来年迎えます20周年という節目の時を、これまでの20年で成し遂げた多くの成果と20年を経過して見えてきたさまざまな課題を正確に見極め、今後のJリーグの土台を築く重要な2年間と位置付けて、進むべき道筋を皆さまに示し、実践していく決意です。

本年もJリーグの活動に対し、ご支援とご理解を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2012年1月

社団法人 日本プロサッカーリーグ チェアマン 大東 和美

J.LEAGUE™ TOP PARTNERS

Calbee

Canon

KONAMI

AIDEM

Coca-Cola



J.LEAGUE™ 100 YEAR VISION PARTNER

朝日新聞

J.LEAGUE™ FAIRPLAY PARTNER

東京エレクトロン

LEAGUE CUP SPONSOR

ヤマザキナビスコ

SUPER CUP SPONSOR

FUJI XEROX

J.LEAGUE™ OFFICIAL EQUIPMENT PARTNER

adidas

J.LEAGUE™ OFFICIAL SUPPLIER

Johnson & Johnson

J.LEAGUE™ OFFICIAL BROADCASTING PARTNER

スカパー!

SPORTS PROMOTION PARTNER



J.LEAGUE™ OFFICIAL TICKETING PARTNER

ぴあ

2012年Jリーグパートナー・スポンサー契約決定

Jリーグは12月19日に開催した理事会で、従来のJリーグオフィシャルスポンサーを「Jリーグトップパートナー」と名称変更し、下記6社とJリーグトップパートナー契約を締結することを決定し、併せて下記各種パートナー・スポンサー契約の締結を決定した。また、Jリーグフェアプレーパートナーとして東京エレクトロン株式会社、Jリーグオフィシャルチケッティングパートナーとしてびあ株式会社と、新規契約を締結することを決定した。

カテゴリ/契約社名	新規/継続	契約期間
Jリーグトップパートナー (名称変更)		
カルビー株式会社	継続(1993~)	2012.1.1~2012.12.31
キヤノン株式会社/ キヤノンマーケティングジャパン株式会社	継続(1996~)	2012.1.1~2012.12.31
株式会社コナミデジタルエンタテインメント	継続(1999~)	2012.1.1~2012.12.31
株式会社アイデム	継続(2005~)	2012.1.1~2012.12.31
日本コカ・コーラ株式会社	継続(2009~)	2012.1.1~2012.12.31
日本マクドナルド株式会社	継続(2011~)	2012.1.1~2012.12.31
Jリーグ百年構想パートナー		
朝日新聞社	継続(2003~)	2012.1.1~2012.12.31
Jリーグフェアプレーパートナー		
東京エレクトロン株式会社 ※1	新規(2012~)	2012.1.1~2012.12.31
スーパーカップスポンサー		
富士ゼロックス株式会社	継続(1994~)	2012.1.1~2012.12.31
Jリーグオフィシャルサプライヤー		
ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ビジョンケアカンパニー	継続(2008~)	2012.1.1~2012.12.31
Jリーグオフィシャルチケッティングパートナー		
びあ株式会社 ※2	新規(2012~)	2012~14
90°システム広告スポンサー		
日本コカ・コーラ株式会社	継続(2009~)	2012.1.1~2012.12.31

※1: 2011年はJリーグオフィシャルスポンサーとして契約
※2: 新規

【参考】2012年契約決定済み

名称	契約締結更新年月	新規/継続	契約期間
リーグカップスポンサー			
ヤマザキナビスコ株式会社	2010.12	継続(1992~)	2011.1.1~2013.12.31
Jリーグオフィシャルエクイップメントパートナー			
アディダスジャパン株式会社	2011.1	継続(2005~)	2011.1.1~2016.12.31
株式会社モルテン	2011.1	継続(1993~)	2012.1.1~2016.12.31
Jリーグオフィシャルブロードキャストパートナー			
スカパーJSAT株式会社	2011.11	継続(2007~)	2012.1.1~2016.12.31

2012シーズン追加登録期限について

Jリーグは12月19日に開催した理事会で、2012シーズンのJ1・J2リーグ戦およびJリーグヤマザキナビスコカップの出場資格を得るための選手追加登録期限を下記の通り決定した。

2012シーズン追加登録期限	
J1リーグ戦/J2リーグ戦	2012年9月14日(金)
Jリーグヤマザキナビスコカップ	2012年8月31日(金)

Jリーグは、大会の公平な競争性を確保する観点から、リーグ戦とヤマザキナビスコカップについて、クラブが選手を追加登録できる期限を定めている。※原則として、選手の登録(移籍)は、登録期間(ウインドー)中のみ可能となるが、登録期間(ウインドー)の例外が認められる登録(移籍)を含む全ての登録(移籍)に関する期限として、Jリーグで定めている。

2012シーズン登録期間(ウインドー)	
第1登録期間(ウインドー)	2012年1月6日(金)~3月30日(金)
第2登録期間(ウインドー)	2012年7月20日(金)~8月17日(金)

日本サッカー協会は、国際サッカー連盟(FIFA)の規則に基づき、登録期間(ウインドー)を定めている。FIFAは各国協会に対し、年2回の登録期間(ウインドー)を設けることを義務づけており、第1登録期間(ウインドー)は、シーズンとシーズンの間に最大12週間、第2登録期間(ウインドー)はシーズン中に最大4週間の期間と定められている。FIFAおよび日本サッカー協会の規則に基づき、JリーグおよびJFLのクラブへの選手の登録(移籍)は、一部の例外を除き、原則として上記の登録期間(ウインドー)の期間中においてのみ可能となる。

スーパーカップ冠スポンサーに富士ゼロックス株式会社

Jリーグは、2012年のスーパーカップ冠スポンサー契約を、これまでに引き続き、富士ゼロックス株式会社と締結することを決定した。

FUJI XEROX SUPER CUP 2012 開催概要	
特別協賛	富士ゼロックス株式会社
開催日	2012年3月3日(土) 13:35キックオフ
開催会場	国立競技場
対戦カード	柏レイソル(2011 Jリーグチャンピオン) vs FC東京(第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会優勝)
テレビ放送	日本テレビ系全国ネットにて生中継

2012年度収支予算について

Jリーグは12月19日に開催した理事会・総会で、2012年度(平成24年度)のJリーグ収支予算を承認した。

2012年度(平成24年度)収支予算(総括表)				単位: 百万円
科目	2012予算(A)	2011予算(B)	差額(A-B)	
I 事業活動収支の部				
1. 事業活動収入				
①基本財産運用収入	0	0	0	
②入会金収入	100	0	100	
③会費収入	1,166	1,125	41	
④事業収入	10,441	10,857	▲416	
協賛金収入	3,694	4,314	▲620	
Jリーグ主管試合入場料収入	300	170	130	
放送権料収入	4,829	4,849	▲20	
商品化権料収入	632	600	32	
その他	986	924	62	
事業活動収入計	11,707	11,982	▲275	
2. 事業活動支出				
①事業費支出	11,076	11,263	▲188	
リーグ運営経費支出	3,130	2,790	341	
クラブへの配分金	6,791	7,028	▲237	
その他	1,154	1,446	▲291	
②管理費支出	600	590	10	
事業活動支出計	11,675	11,853	▲178	
事業活動収支差額	31	129	▲98	
II 投資活動収支の部				
1. 投資活動収入	273	230	43	
2. 投資活動支出	9	24	▲15	
投資活動収支差額	264	206	58	
III 財務活動収支の部				
1. 財務活動収入	0	0	0	
2. 財務活動支出	0	0	0	
財務活動収支差額	0	0	0	
IV 予備費支出	100	100	0	
当期収支差額	195	235	▲40	
前期繰越収支差額	1,175	784	391	
次期繰越収支差額	1,371	1,019	351	

※四捨五入により、一部に合計が合わない箇所があります。

実行委員・参与選任について

Jリーグは12月19日に開催した理事会で、下記のように実行委員の変更、参与の選任を決定し、同じく新入会クラブの実行委員の選任を承認した。

実行委員		
クラブ名	変更前	変更後
モンテディオ山形	川越 進 社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会 前理事長	高橋 節(たかはし たかし) 社団法人山形県スポーツ振興21世紀協会 理事長職務代行者・副理事長
ジェフユナイテッド千葉	三木 博計 ジェフユナイテッド株式会社 前代表取締役社長	島田 亮(しまだ あきら) ジェフユナイテッド株式会社 代表取締役社長
実行委員(2012入会クラブ)		
FC町田ゼルビア	下川 浩之(しもかわ ひろゆき)	株式会社ゼルビア 代表取締役社長
松本山雅FC	大月 弘士(おおつき ひろし)	株式会社松本山雅 代表取締役社長
参 与		
三木 博計: ジェフユナイテッド株式会社 前代表取締役社長 実行委員(ジェフユナイテッド千葉): 2008年5月~11年11月(在任期間3年6カ月)		

敬称略

2012 Jリーグクラブ編成

全40クラブ		
コンサドーレ札幌 ベガルタ仙台 モンテディオ山形 鹿島アントラーズ 水戸ホーリーホック 栃木 SC ザスパ草津 浦和レッズ 大宮アルディージャ ジェフユナイテッド千葉 柏レイソル FC東京 東京ヴェルディ FC町田ゼルビア※	川崎フロンターレ 横浜F・マリノス 横浜 FC 湘南ベルマーレ ヴァンフォーレ甲府 松本山雅 FC※ アルビレックス新潟 カターレ富山 清水エスパルス ジュビロ磐田 名古屋グランパス FC岐阜 京都サンガF.C. ガンバ大阪	セレッソ大阪 ヴィッセル神戸 ガイナレ鳥取 ファジアーノ岡山 サンフレッチェ広島 徳島ヴォルティス 愛媛 FC アビスパ福岡 ギラヴァンツ北九州 サガン鳥栖 ロアッソ熊本 大分トリニータ

J1 (18クラブ)			
コンサドーレ札幌 ベガルタ仙台 鹿島アントラーズ 浦和レッズ 大宮アルディージャ	柏レイソル FC東京 川崎フロンターレ 横浜F・マリノス アルビレックス新潟	清水エスパルス ジュビロ磐田 名古屋グランパス ガンバ大阪 セレッソ大阪	ヴィッセル神戸 サンフレッチェ広島 サガン鳥栖

J2 (22クラブ)			
モンテディオ山形 水戸ホーリーホック 栃木 SC ザスパ草津 ジェフユナイテッド千葉 東京ヴェルディ	FC町田ゼルビア※ 横浜 FC 湘南ベルマーレ ヴァンフォーレ甲府 松本山雅 FC※ カターレ富山	FC岐阜 京都サンガF.C. ガイナレ鳥取 ファジアーノ岡山 徳島ヴォルティス 愛媛 FC	アビスパ福岡 ギラヴァンツ北九州 ロアッソ熊本 大分トリニータ

太字・下線：2011 シーズンからの変更箇所 ※：新規入会クラブ

2012 Jリーグスケジュール

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
2012 J.LEAGUE	J.LEAGUE DIVISION 1		J1リーグ戦 第1~34節 3/10(土)~12/1(土)									
	2012 J.LEAGUE YAMAZAKI NABISCO CUP		2012 Jリーグヤマザキナビスコカップ 予選リーグ 1 2 3 4 5 6 7 3/20(火祝) 4/4(水) 4/18(水) 5/16(水) 6/6(水) 6/9(土) 7/6(27日) 準々決勝 QF-1 QF-2 7/25(水) 8/8(水) 準決勝 SF-1 SF-2 9/5(水) 10/13(土) 決勝 ☆ 11/3(土祝) ※予定 ★スペシャルマッチ(仮称) 7/14(土)※予定									
2012 J.LEAGUE	J.LEAGUE DIVISION 2		J2リーグ戦 第1~42節 3/4(日)~11/11(日)									
	AFC CHAMPIONS LEAGUE		AFCチャンピオンズリーグ2012 グループステージ 第1~6節 ラウンド16 3/6(火)~5/16(水) 5/29(火) 5/30(水) 準々決勝 QF-1 QF-2 QF-1 9/19(水) QF-2 10/2(火) 準決勝 SF-1 SF-2 SF-1 10/24(水) SF-2 10/31(水) 決勝 ☆ 11/ 9(金)または 11/10(土) または10/3(水)									
			J1昇格プレーオフ 準決勝 決勝 11/18(日) 11/25(日)									

2012 Jリーグ J1昇格プレーオフ 大会方式および試合方式について

2012シーズンより新設する、2012 Jリーグ J1昇格プレーオフの大会方式および試合方式が、下記の通り決定した。

【J1昇格プレーオフへの参加条件】

- ・2012 J2リーグ戦年間順位 3~6位の4クラブとする。
- ・当該4クラブのうち、J1クラブライセンスが付与されていないクラブがある場合は、同クラブを除いたクラブがプレーオフを行い、年間順位7位以下の繰り上げ出場はない。
- ・当該4クラブのうち、3クラブにJ1ライセンスが付与されていない場合は、本大会を開催せず、J1ライセンスを保有する1クラブがJ1へ自動昇格する。
- (注) 4クラブ全てにJ1ライセンスが付与されていない場合は、J1の16位クラブの降格がなくなり、J2の上位2クラブのみが翌年J1へ昇格する。

J1昇格プレーオフ【開催日】 準決勝：11月18日(日)、決勝：11月25日(日) ※ J2リーグ戦全日程終了後に開催する。●大会日程は現段階での予定のため、変更になる可能性がある。		
大会方式	(1) 参加クラブ数4の場合	各1試合のトーナメント方式(計3試合) J2リーグ戦年間順位3~6位のクラブで、各1試合のトーナメントを行う(3位vs6位、4位vs5位)。準決勝2試合は、リーグ戦各上位クラブのホームで行う。決勝1試合は中立地開催。
	(2) 参加クラブ数3の場合	各1試合のトーナメント方式(計2試合) J2リーグ戦年間順位3~6位のクラブのうち、出場条件を満たした3クラブで、トーナメントを行う。上記3クラブのうち、下位2クラブで準決勝を行い、勝者が決勝に進出する。準決勝1試合は、リーグ戦上位クラブのホームで行う。決勝1試合は中立地開催。
	(3) 参加クラブ数2の場合	決勝1試合のみ 出場条件を満たした2クラブが対戦する。中立地開催。
試合方式	<試合方式および勝敗の決定> 90分間(前後半各45分)の試合を行い、準決勝および決勝とも90分で引き分けの場合は、年間順位の優位性を確保するため、年間順位が上位のクラブを勝利扱いとする。	

【備考】(1) J1の昇格権利を得たクラブは、Jリーグ理事会の承認を経て、昇格が最終決定する。

(2) 審査により、年間順位1位、2位のクラブにJ1昇格の資格がない場合、年間順位3位以下の繰り上げはない。(3~6位のクラブがプレーオフ出場を免除されることはない)

2012 Jリーグ公式試合球として“TANGO 12(タンゴ 12)”を使用

Jリーグは、2012 Jリーグ公式試合球として、Jリーグオフィシャルエキップメントパートナーである株式会社モルテンの提供を受け、アディダスの“TANGO 12(タンゴ 12)”を使用することとなった。“日出ずる国”である日本を象徴する太陽をモチーフに、使用カラーは国際サッカー連盟(FIFA)の基本色であるダークブルーを用いている。また、ネーミングは1978 FIFA ワールドカップ アルゼンチンでボールデザインに革命を起こした「TANGO(タンゴ)」を踏襲。2011年12月8~18日に日本で開催されたTOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2011公式試合球として使用された他、FIFA主催試合、日本サッカー協会主催の公式試合にも使用される。



東日本大震災復興支援 日本プロサッカー選手会 クリスマス・チャリティーサッカー2011に協力

Jリーグは12月19日に開催した理事会で「東日本大震災復興支援 日本プロサッカー選手会 クリスマス・チャリティーサッカー2011」(主催：一般財団法人 日本プロサッカー選手会)を後援することを決定した。本イベントは、選手の社会貢献活動プログラム(J100年基金)の一環として開催。2011年12月22日に被災地でふれあい活動、同23日にユアテックスタジアム仙台で東北選抜(東北出身者、東北に縁のある選手で構成するチーム)vs JPF A選抜(国内外の選手で構成するチーム)の試合が行われた。

Jクラブと歩む「地域」「ひと」

19

ジュビロ磐田



ホームゲームを小学生が一斉観戦。 深まる選手との絆、高まる郷土への誇り



一斉観戦授業で約3,500人の児童らがホームスタジアムのバックスタンドを埋め尽くした

©ジュビロ磐田

2年がかりのプロジェクト

昨年5月21日のアビス福岡戦、ヤマハスタジアム(磐田)の観客席は小学生が主人公だった。磐田市内の23小学校全校の5~6年生と引率教諭ら合わせて約3,500人がバックスタンドを埋め、ジュビロ磐田の選手に声援を送った。市内全小学校を対象にした一斉観戦は、Jリーグ初。渡部修磐田市長が公約に掲げたこの一大プロジェクトは、ジュビロ磐田とジュビロ磐田ホームタウン推進協議会(市民団体)、そして磐田市との協働で実現した。

一斉観戦授業は2年がかりのプロジェクトだった。平成22年度はジュビロ磐田の選手が2人ずつに分かれ、市内全小学校を訪問した。選手の訪問は、児童に事前に知らせず、「サプライズ」。昼休みの約20分間、校庭や体育館で交流を深めた。

日本代表DFでもある駒野友一選手は磐田市立竜洋東小を訪問した。その後、一昨年10月に行った韓国との国際親善試合で右上腕骨を骨折すると、竜洋東小の児童は千羽鶴を作り、「早くけがを治して、また世界一のプレーを見せてください」という励ましのメッセージとともに届けた。駒野選手だけでなく、児童の応援は選手一人一人の力になっていった。

一斉観戦授業での計画運営に尽力したのは、磐田市市民活動推進課スポーツ振興室のメン



金子和由氏

バー。金子和由同室グループ長は「大人になって磐田を出てみた時、ふるさとへの愛着を実感し、育ったまちに誇りを持ってほしい。ジュビロが、その中心になれば」と願い、教育委員会とともに各学校の協力取り付けに奔走した。一斉観戦授業は教育活動の一環として行った。土曜日の実施に、保護者の理解を得ることも必要だった。

事前準備として、児童はクラス単位での応援フラッグを作った。各校が昨年度に訪問した選手の応援を担当。約100cm×約160cmの旗の中心に応援する選手の名前を入れ、参加する全児童が応援のメッセージや絵を書いた。

より熱心に応援できる仕掛けを

当日は約80台のバスを使って児童をスタジアムまで送迎した。キックオフ直前には、各クラスの代表111人が手作りの応援フラッグを持ってピッチ中央に1列に並び、選手入場に合わせて「フラッグアトラクション」を行った。サッカースタジアムに入るのが初めてという児童も多く、スタンドは大盛り上がり。試合が始まると児童たちの歓声が起り、スタジアムの一体感は普段以上だった。

また、試合後には大型ビジョンの映像で、全選手が応援してくれた児童へお礼の言葉を伝えた。観戦後のアンケートで児童の約8割が「ジュビロ磐田を身近に感じ、応援する気持ちが高まった」「磐田市のことを以前より好きになった」と答えた。金子グループ長は「おそらく大都市ではできない事業。地方都市で市民全

体に郷土愛があるからこそ実施できた。当日の児童たちの輝く笑顔を見たら、涙がこぼれそうになった」と振り返った。

その後、ジュビロの選手が一斉観戦のお礼として、再び学校訪問を行った。東日本大震災の影響で試合スケジュールが変更となり、夏場に時間を取れなかったが、6月と10月に降に前年度と同様に選手が2人ずつ、市内全小学校を訪ねた。訪問時間は前年度より延びて約1時間。今度は授業時間に受け入れる学校が多く、選手と児童と一緒に縄跳びやサッカーのミニゲームなどを楽しんだ。

一斉観戦授業は来年度も実施する方向。本年度の経験を生かし、子どもたちがより熱心に応援できる仕掛けを検討している。吉野博行(株)ヤマハフットボールクラブ代表取締役社長は「一斉観戦を通じて選手と子どもたちの絆が深まった。『ジュビロから元気をもらった』と地域の人たちに実感してもらえる活動を今後も続けたい」と意欲を示している。



吉野博行氏

約3,500人の児童らの声援を受けた福岡戦。磐田はエースのFW前田遼一選手が2得点を挙げ、4-1で快勝した。金子グループ長はJリーグ入会当時からジュビロサポーター。「小学生が一斉観戦すれば、ジュビロは絶対に勝つ。勝点3を計算できる。相手チームに『一斉観戦の試合は戦いたくない』と言わせたいですね」とほほ笑んだ。

(静岡新聞社 寺田 拓馬)



選手は学校訪問を通じて児童と交流を深めている

©ジュビロ磐田

「豊かで充実したスポーツ環境を実現し、地域に根差したスポーツクラブを中心に、日本にスポーツ文化を育む」ことを目指す「Jリーグ百年構想」のもと、Jクラブはそれぞれのホームタウンを中心に、さまざまな取り組みを行っている。そして、Jクラブの存在、活動は、地域とそこに暮らす人々に影響、刺激を与え、新たなムーブメントを生んでいる。Jクラブと手を携えながら、ともに歩む人々や、その活動を紹介するこのシリーズ。今号ではジュビロ磐田、ロアッソ熊本と連携した地域の取り組みにスポットを当てた。



20

ロアッソ熊本



協力関係が深まり活動の場が広がる。商店街、クラブの相互活性化に期待

にぎわいを取り戻すために

約50本の真っ赤なフラッグがはためく熊本市の健軍商店街。2011年7月18日に開かれたロアッソ熊本のファン感謝祭は、約2千人のファン・サポーターらが詰め掛ける盛況を見せた。

歩行者天国となったアーケード内のブースでは、ロアッソの選手・スタッフがホットドッグを販売したり、記念撮影に応じたり。健軍を含む近隣の4商店街でつくる「健軍まちづくり推進協議会」の鈿羽逸朗(みわ いつろう)会長は「あれだけのお客さんが集まると活気づくし、今まで商店街を知らなかった人にアピールできる。ありがたいこと」と目を細める。



鈿羽逸朗氏

健軍地区の商店街は熊本市東部の住宅街にある「地域商店街」。郊外への大型ショッピングセンターの出店などで、20年ほど前から客足が減少した。現在は約300mのアーケードを中心に約180店が営業しているが、往時のにぎわいは取り戻せていない。「ロアッソを起爆剤として、何とか活気づけたい」。そんな思いから、地元プロサッカークラブの応援に力を入れている。

活動が本格的にスタートしたのはクラブ発足から5年目、J2入会2年目に当たる09年。商店街の近くには熊本市電(路面電車)

の終点があり、公共交通の要所となっている。そこに注目したクラブが、ホームスタジアムの熊本県民総合運動公園陸上競技場(KKWING)へ向かうシャトルバスの発着点に選んだのを機に、応援フラッグの掲示などが始まった。

翌10年にはロアッソ運営会社、(株)アスリートクラブ熊本の協力もあって、タッチパネル式のデジタルサイネージ(46インチ画面の情報端末)2台が商店街内に設置された。各店舗のマップや熊本市電の時刻表などに加え、ロアッソの選手動画や最新記事などを提供中だ。

11年秋からは商店街で発行している共通ポイントカードのデザインにクラブマスコットの「ロアッソくん」を導入。カード売上金の一部をロアッソに寄付する事業も始めた。

商店街で靴店を営む鈿羽会長は「以前はロアッソからの働き掛けに対して“受け身の協力”になっていたが、対等の協力関係になってきた。高齢者を中心とした既存の買い物客にロアッソをPRしつつ、若いファミリー層を中心にロアッソサポーターを商店街に呼び込みたい」と相互の活性化に期待を寄せる。

中小企業や行政、県民の支え

アーケード内にはロアッソくんをあしらった地蔵、「ロアッソ大明神」の姿も。制作を発案した、家電店を経営する商店街青年部の井川正宏部長は「お客さんとの間でロアッソが話題になる機会が増えた。サポーターの人たちとも



ファン感謝祭が行われ、大勢のファン・サポーターでにぎわう健軍商店街 ©ロアッソ熊本

随分顔見知りになった」と手応えを感じている様子だ。

井川さん自身、サッカー経験者だけに、地元チームへの愛着は人一倍。ロアッソ(当時はロッソ熊本)が05年に発足すると、「熊本にJクラブができるのなら応援しなきゃ」と店先に小旗やユニフォームを飾ってPRに協力してきた。



井川正宏氏

クラブが11年夏から小規模の飲食店、商店などを対象に小ロスポンサー「絆ショップ」(加盟費2万1000円)の募集を始めた際にも、井川さんの家電店はすかさず加盟した。「浦和レッズや柏レイソル、鹿島アントラーズなどは地域の人たちのサポートが大きいし、選手、クラブもサポーターを大事にしている印象がある。そのように協力関係が深まっていけば、チームはもっと強くなる」と先を見据える。

11年のロアッソの予算規模は7億円弱とJ2でも平均以下の水準。特定の支援企業を持たない地方の小クラブは「県民運動」を掲げ、数多くの中小企業や行政、県民の支えを受けながら成長してきた。

健軍地区のような地域挙げての応援がさらに広がりを見せた時、悲願のJ1昇格がぐっと近づくはずだ。

(熊本日日新聞社 田中 祥三)



子どもたちと選手と一緒に楽しんだファン感謝祭のイベント

©ロアッソ熊本



「2011 ユースカップ 第19回Jリーグユース選手権大会」は11年12月

25日にキンチョウスタジアムで決勝が行われ、名古屋グランパスU18がセレッソ大阪U-18に2-1と競り勝ち初優勝を飾った。

この大会で3度の優勝歴を持つサンフレッチェ広島F.Cユースを準決勝で下した名古屋U18は、初の決勝進出。34分にゴール前の混戦からFW北川柊斗が蹴り込むと、その5分後



決勝で名古屋の全得点に絡む活躍を見せた北川

には北川の右からの折り返しをFW高原幹が押し込んで2点のリードを奪った。

3年ぶり2度目の決勝進出で、やはり初優勝を目指したC大阪U-18は、前半アディショナルタイム1分にFW風間健治が1点を返した。だが、名古屋U18のGK石井綾の好守に阻まれるなど、追い付くことはできなかった。

名古屋U18の高田哲也監督は「頑張った結果が優勝につながり、素直にうれしい」と喜びを表し、C大阪U-18の大熊裕司監督は「さまざまなプレッシャーの中でプレーできた経験は大きい」と収穫を挙げた。表彰式後にはスタジアム内で恒例となったポストマッチファンクション(交歓会)が開催され、両クラブの選手や関係者らが交流した。



初優勝の喜びに沸く名古屋。準決勝、決勝は相手の追撃をかわしての勝利だった

また、今大会の準々決勝に進出した8チームには、「より良き宮崎牛づくり対策協議会」より、各チーム20kgずつ、合計160kgの宮崎牛が贈呈された。昨年初め、Jリーグの全38クラ

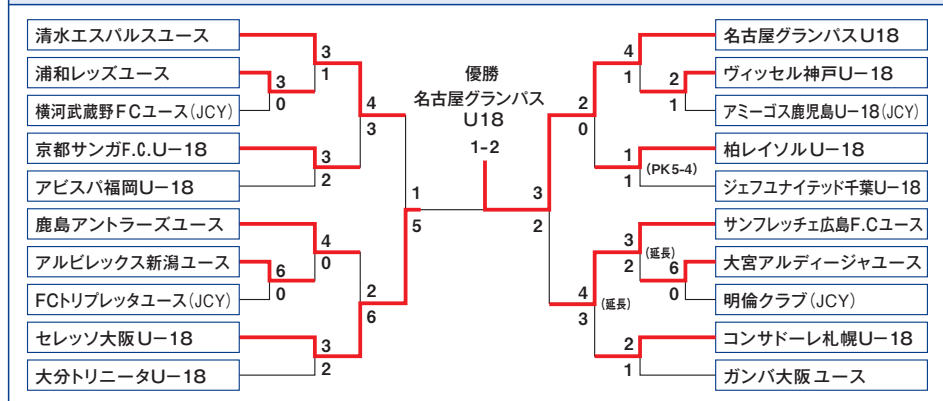


準々決勝進出の8チームには宮崎牛が贈呈された

ブが新燃岳の噴火災害に対し、復興支援の激励、災害義援金募金を実施。同協議会から感謝の気持ち、復興を示す証しとして贈られた。

決勝トーナメント

※JCY:日本クラブユースサッカー連盟



大東和美 Jリーグチェアマンコメント

名古屋グランパスU18の皆さん、ユースカップ優勝おめでとうございます。準決勝の勢いそのままに、決勝も序盤から果敢な攻撃を重ねたこと、そして、ゴールキーパーを中心として全員で守り切った集中力がチームを初優勝に導いたのだと思います。惜しくも準優勝に終わったものの、セレッソ大阪U-18の後半からの圧倒的な攻撃力は、多くの入場者を魅了するほど素晴らしいものでした。試合を通して緊張感のあるレベルの高い決勝であり、本日プレーした選手たちの高い技術は、Jリーグの育成組織が間違いなく進化していることを確信しました。本日の決勝の舞台で戦った選手の方々は、今後さまざまなフィールドでサッカーをすることになると思いますが、本日の決勝がよき友、よきライバルに巡り会えた場として、それぞれ記憶に残る試合になってくれることを希望します。

FC東京が初優勝



第91回天皇杯全日本サッカー選手権大会の決勝が1月1日、国立競技場で行われ、FC東京が京都サンガF.C.を4-2と破って初優勝を成し遂げた。

大会史上初めてJ2クラブの対決となった決勝で、FC東京は京都に先制を許した2分後の15分、DF今野泰幸



見事な逆転勝利で初優勝を飾ったFC東京

が同点ゴール。36分にはDF森重真人が強烈なミドルシュートを決めて逆転に成功し、FWルーカスの2得点でリードを広げた。また、FC東京はこの大会の優勝クラブに与えられるAFCチャンピオンズリーグ2012への出場権も獲得した。

柏レイソルが世界の第4位に



「TOYOTA プレゼンツ FIFAクラブワールドカップ ジャパン 2011」(11年12月8~18日)に開催国代表として出場した柏レイソルが、4位の好成績を残した。J1リーグ戦に初優勝を成し遂げて出場権をつかんだ柏は、開幕戦でオセアニア代表のオークランド・シティFC(ニュージーランド)を2-0と下し、準々決勝では北中米カリブ海代表のCFモンテレイ(メキシコ)と延長戦を含む120分間で1-1と譲らず、PK戦を4-3と制して4強入り。準決勝で南米代表のサントスFC(ブラジル)に1-3と敗れ、3位決定戦ではアジア代表のアルサッド(カタール)に0-0からのPK戦で3-5と惜敗した。



3位決定戦でアルサッドのゴールに迫る柏の北嶋

